

調査・研究活動——二〇〇九年度～二〇一〇年度

平成二二(二〇一〇)年度は、研究所プロジェクト四件、若手研究者育成研究所プロジェクト一件の計五件の研究資金を獲得したプロジェクトをはじめとして、従来の班別研究など多数の共同研究計画が展開された。

【研究所プロジェクト】

「境域アジアのトランスナショナル・コミュニティ—地域間比較研究の定礎に向けて」に関する調査研究

期 間 二〇一〇年三月一六日～三月二二日

調査地 石垣・与那国・那覇(沖縄県)

研究員 比嘉 佑典

「境域アジアのトランスナショナル・コミュニティ—地域間比較研究の定礎に向けて」計画による「日韓境域」調査

研究員 松本 誠一
客員研究員 井出 弘毅

期 間 二〇一〇年八月二二日～八月三〇日
調査地 対馬島・巨濟島・釜山(長崎県・大韓民国)

※右記二件の詳細については本号所収の「境域アジアのトランスナショナル・コミュニティ—地域間比較研究の定礎に向けて」報告を参照。

「近代日本におけるトルコ(タタール)系イスラーム教徒にかんする基礎的研究」の為の調査・研究

期 間 二〇一〇年二月二二日～二月二四日

調査地 国立民族学博物館・大阪歴史博物館(大阪府)

研究員 駒井 義昭

「近代日本におけるトルコ(タタール)系イスラーム教徒にかんする基礎的研究」に基づく、トルコ記念館の調査

期 間 二〇一〇年六月三日～六月四日

調査地 トルコ記念館(和歌山県)

研究員 三沢 伸生

※右記二件の詳細については本号所収の「近代日本におけるトルコ(タタール)系イスラーム教徒にかんする基礎的研究」報告を参照。

国際シンポジウム「低炭素社会の構築と中国経済の構造変化」に出席、および資料調査・収集、共同研究に関する打ち合わせ

期 間 二〇一〇年三月一六日～三月二二日
研究員 郝 仁平

調査地 対外経済貿易大学・社会科学学院・国家統計局・人民大学(中華人民共和国)

三月一七日～一八日：北京市において、国家農業部、國務院改革發展委

員会、国家統計局、人民大学、社会科学院人口・労働研究所などの研究機関を訪問し、三農問題に関するマクロ統計資料を収集し、あわせて現地専門家との学術交流を行った。また、社会科学院人口・労働研究所では中国における労働移動に関する研究の第一人者で研究所所長の蔡昉氏と今後共同研究について打ち合わせを行い、七月に本学で開催される予定の国際ワークショップについて報告内容およびスケジュールに関する打ち合わせを行った。

三月一九日～二〇日：北京市にある対外経済貿易大学で開催された国際シンポジウム「低炭素社会の構築と中国経済の構造変化」に出席し、「低炭素社会と農村経済」に関する報告を行い、各国の専門家と学術交流を行った。

今回の海外研究は、中国における農村経済の構造変化や低炭素社会の構築に関する政策動向および学術研究の最新動向について学術交流を行ったとともに、多くの情報や一次資料を入手し、今後の研究に大いに役に立つと考える。

※調査詳細については割愛。

「アジア文化圏における経済法制的諸相」の一環として、研究成果報告

期 間 二〇一〇年三月二十五日～三月三十一日

研究員 後 藤 武 秀

調査地 深圳大学 他（中華人民共和国）

本プロジェクト研究の課題の一つは東アジア経済圏における民事法、と

りわけ商事法の共通化の解明である。特に、東アジアの中でも最も頻繁な人と資源の往来が認められる香港、台湾、深圳という地域は、法の共通化が事実上進展している地域として位置づけられる。それゆえ、この地域の代表的な研究機関である深圳大学法学院と従来より往来を重ねてきたが、今回、同法学院で報告し、研究構想を紹介するとともに、相互批判を経ることによって、将来の共同研究の可能性の大なることを理解しあうことができた。

※報告詳細については割愛。

【若手研究者育成研究所プロジェクト】

「唐代「牛李党争」に関する基礎的研究」に基づく展覧会見学および資料調査

院 生 研 究 員 竹 内 洋 介

期 間 二〇一〇年六月一日～六月三日

調査地 奈良国立博物館・国立国会図書館関西館・京都大学附属図書館・

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館（京都府・奈良県）

六月一日午後、奈良に到着し、奈良国立博物館において開催中の「大遣唐使展」を見学し、唐代の墓誌や墓碑拓本を始めとする陳列品を観覧、併せて常設展にて日本など周辺諸国の墓誌拓本も実見し、墓誌史料に関する知見を深めた。六月二日午前は、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館にて、「大唐皇帝陵展」の見学を行った。会場では、皇帝陵の発掘物とともに、初公開の唐皇族の墓誌・哀冊が展示されており、中でも朱書きされた李誼

墓誌を実見できたことは大きな収穫であった。

同日午後は、従来の予定通り国立国会図書館関西館（京都府相良郡）において、研究文献の収集に努めた。六月三日午前は、京都大学附属総合図書館において、前日と同様に研究文献・史料の収集に努め、夕刻白山に帰着した。両日の研究文献収集では、主として台湾において発表された文献の収集に努め、一〇〇本弱の文献を閲覧・複写することができた。

また、最後になるが、本調査旅行全般に亘る手配・ご案内をして下さった宇都宮美生洛陽理工大学副教授、そして何より指導教授である高橋継男先生に感謝したい。本調査が順調に進み、事前の予想以上に成果を得ることができたのは、両先生のご尽力によるところが大きい、この点につき、特に強調して報告する。

※調査詳細については割愛。

「唐代『牛李党争』に関する基礎的研究」に基づき、墓誌・石刻史料調査および資料収集

院生研究員 竹内洋介

期間 二〇一〇年九月五日～九月一三日

調査地 河南省洛陽・偃師・鄭州（中華人民共和国）

本調査の目的は、新出墓誌・石刻資料の調査および収集である。

本調査の成果としては、何より現在も陸続と発見が続いている洛陽地域の唐代墓誌の全体像に関する知見を得ることができたこと、そして未公表の新出墓誌の原石・拓本を実見することができ、写真撮影等を許されたことが挙げられる。研究遂行上、墓誌資料を多用する身にとっては非常に大きな成果であった。また、魏晋南北朝～唐代に至る墓誌資料を取り扱う第一線の研究者の調査に同行させていただいたことは、その調査の方法を身近で学ぶことができ、今後研究を遂行していくにあたって大きな糧となった。今後は本調査で得られた成果を元に研究課題を遂行し、研究成果を公表していきたい。